

特 別 活 動

1 特別活動における道德教育

生徒の豊かな道德性は、家庭、学校及び社会生活など様々な環境の中で多様な経験を通して育成されるものであり、学校における道德教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである。特に、高等学校においては、生徒の発達段階に対応した指導の工夫が求められることや、小・中学校と異なり道德の時間が設けられていないこともあり、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより道德教育の充実を図ることが大切である。

特別活動においては、目標の中で「人間としての在り方生き方」を掲げており、公民科の「現代社会」「倫理」とともに、人間としての在り方生き方に関する教育について中核的な指導の場面として、重視する必要がある。その意味で、特別活動の様々な教育活動は、道德性の育成にとって重要な機会である。したがって、特別活動における道德教育はホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の各内容における人間としての在り方生き方に関する指導を通じてその充実を図ることが大切であるが、特にホームルーム活動の活動内容「(2)個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること」及び「(3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること」において集約的に行う必要がある。

2 ホームルーム活動等における道德教育の内容

特別活動は、望ましい集団活動の育成を通じて、個人的、社会的な資質を身に付ける自主的、実践的な態度を育て、併せて人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことをねらいとしているので、生徒が現在及び将来に向かって当面する諸課題へ具体的に取り組むことについて、その主体的な活動を助長することを通して道德教育の展開が行われることになる。

また、道德的心情、道德的判断力及び道德的实践意欲・態度などからなる道德性を養うことという道德教育の目標は、特別活動における集団としての自主的、実践的な活動についての指導を通じて達成されることが多く、道德教育との関連を大切にした指導を行う必要がある。

本手引では、学習指導要領に示されている特別活動の各内容の取扱いについての配慮事項を踏まえた上で、各内容における道德教育の展開例を示している。

内 容	道德教育の展開例
ホームルーム活動	人間関係の確立とコミュニケーション能力の育成
生徒会活動	身近な問題の解決を図る力の育成
学校行事	望ましい勤労観や職業観、社会奉仕の精神の育成

各学校においては、道德教育の充実が学習指導要領において重視されていることを踏まえ、年間指導計画に基づき、円滑な人間関係の確立を促す指導や命を大切にす指導、ボランティア等の体験的活動を通して、豊かな人間性の育成を図るとともに、人間としての在り方生き方に関する教育を一層具体的に展開する必要がある。

(1) ホームルーム活動展開例

活 動	人間関係の確立とコミュニケーション能力の育成を図るための活動			
本時の標	多様な話合いやグループ活動等を通して、他者の言葉や意見に耳を傾けながら、自分でしっかりと考え自分の言葉で適切に表現できる力や、自己理解・他者理解を深め、円滑な人間関係を築く力を身に付けさせる。			
本時の活 動	ディスカッション(グループ・クラス)、ロールプレイング			
展 開	日 時	8月30日(3~4校時)	内 容	
	場 所	教室	対象生徒 1年組(生徒40名)	
展 開	1 訪問活動への意識付け (1) 過去の体験を振り返り、異校種や施設の訪問など異年齢の人との交流を通して、学んだことを発表する。 (2) 社会福祉施設の職員から、施設の概要や注意事項についての説明を受ける。			
	2 ロールプレイング (1) グループに分かれ、用意したシートを使って、社会福祉施設の方々との交流場面を想定したロールプレイングを行う。 (2) 感じたことを話し合い、社会福祉施設の職員から助言をいただく。			
展 開	3 交流活動の内容についての話し合い (1)ブレインストーミング ・施設訪問では、どのような交流活動を実施すると楽しいか、社会福祉施設の方々の視点から考えたアイデアを自由に付箋に書き込む。 (2) ディスカッション(グループ・クラス) ・グループに分かれ、KJ法を用いてアイデアを整理し、訪問のテーマと活動内容の案を決定する。 ・各グループの発表の後、クラス全体で話し合い、活動内容等を決定する。 ・活動内容に応じて、必要な役割(係)を設定し、全員で分担し合う。			
	(3) シェアリング ・本時の活動について、気付いたこと、感じたことをワークシートにまとめ発表する。 ・担任から、講評・助言する。			
指導上の留意点	1 ロールプレイングでは、スムーズに役割演技が行えるよう効果的なウォームアップを取り入れる。 2 ブレインストーミングでは、自由な発想を大切にするため、どのような考えであっても肯定的にとらえ、批判しないようにする。 3 グループ内の決定は多数決によらず、相互の意見と話し合いの過程を尊重する。 4 社会福祉施設の職員との事前の打ち合わせを綿密にしておく。			
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	相手の意見に謙虚に耳を傾けるとともに、積極的に討議に参加している。		
	思考・判断	相手の意見を聞き、自分の考えを客観的に考えることができる。		
	技能・表現	自分の考えを論理的に表現することができる。		
	知識・理解	協力・協働体制を築くための好ましい人間関係の確立の重要性を理解している。		
道徳教育との関連	1 自己理解や他者理解を深め、互いの個性を尊重したり、協力し合う態度の醸成 2 集団に対する所属感・連帯感や共生の意識の醸成			
人間関係の確立等に関連した年間計画での活動	4月	学級開き(グループエンカウンター)	9月	アサーショントレーニング
	5月	自己適性診断	11月	ディベート(青少年の携帯電話のメール使用を禁止すべきである)
	7月	インタビュー活動(地域・仕事探検隊)及びまとめの発表	1月	コミュニケーションの手法トレーニング(グループエンカウンター等)
	8月	【展開例】 ディスカッション等(社会福祉施設訪問の計画等)	2月	3分間スピーチ(1年間を振り返って)

(2) 生徒会活動展開例

活 動	いじめや暴力など身近な問題の解決を図る力を育成するための活動			
本時の目標	年間を通して、いじめ根絶や暴力行為の撲滅を図る取組や、人権の尊重や命の大切さの指導を通して、他人を思いやる豊かな心を育成するとともに、正義感や倫理観を身に付けさせる。			
本時の活動内容	パネルディスカッション（いじめや暴力をなくすためには何が必要か）			
展 開	日 時	9月10日（3～4校時）	内 容	
	場 所	体育館	対 象 者	
	1 テーマ「いじめや暴力をなくすためには何が必要か」についての意識付け (1) アンケート結果と分析について説明する。 (2) 道教委が平成19年6月に実施した「命の大切さに関する意識調査」の結果と考察等を紹介するとともに、同じ質問を参加者全員に行い、事前に意識付けを行う。 (3) 生徒会役員が、参加者全員に対して「いじめや暴力行為に発展する原因は何か」、「どのような行動が未然防止につながるか」、「加害者にならないために気を付けることは何か」等を質問する。			
	2 パネルディスカッション (1) 登壇者 パネリスト5名（生徒2名、保護者1名、地域住民1名、教員1名） コーディネーター 教員（生徒指導担当） 助言者 学校長または関係機関職員 (2) 内 容 ・各パネリストの発言をもとに、「いじめや暴力の原因」「発生時の対応や未然防止の対策」について、課題を整理する。 ・フロアの参加者（生徒・保護者）から、感想や意見を発表してもらい、課題解決の方策を探る。 ・コーディネーターと助言者から、講評・助言をいただく。			
	3 パネルディスカッション後の活動 生徒は、学んだことや感じたことなどをワークシートにまとめる。			
指導上の留意点	1 フロアの参加者が、積極的に意見を発表できるように配慮する。 2 協議内容等について、コーディネーターや助言者と十分な連携を図る。 3 参加者全員への質問では、Yes・Noカードを用いるなどして、回答しやすい工夫をする。 4 道教委実施の「命の大切さに関する意識調査」報告書を活用する。			
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	いじめや暴力問題に真剣に受け止め、パネリストや他の人の意見に関心を持ち、メモなどを取りながら聞いている。		
	思考・判断	いじめや暴力問題の原因等について深く考え、対応や未然防止のために必要な行動の仕方・技術について理解し、適切に判断している。		
	技能・表現	対応や未然防止の在り方について、自分の考えや意見を適切に表現するとともに、協力しながら実践する技能を身に付けている。		
	知識・理解	いじめや暴力は決して許されない重大な問題であることを認識するとともに、この取組が学校生活の充実につながることを理解している。		
道徳教育との関連	1 他人を思いやる心、生命を大切にし人権を尊重する心など、豊かな心の育成 2 規範意識や公正を重んじる心など、正義感や倫理観などの育成			
いじめや暴力行為の根絶に関連した年間計画での活動	6月	いじめ等に関するアンケートの実施	10月	パネルディスカッションについての感想文の作成
	7月	アンケート結果と分析の公表		
	8月	アンケート結果と分析についてのクラス討議、生徒会通信の発行	11月	「いじめ根絶」生徒会宣言
	9月	【展開例】パネルディスカッション（いじめや暴力をなくすためには何が必要か）	12月	規範意識や倫理観に関する講演会の開催

(3) 学校行事展開例

活動	望ましい勤労観や職業観、社会奉仕の精神を育成するための活動			
本時の目標	地域の環境美化活動の工夫、就業体験などの勤労や生産にかかわる活動、保育体験や介護体験などのボランティア活動を通して、勤労の尊さや意義を理解させ、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせるとともに、共に生きる人間として必要な社会奉仕の精神を養う。			
本時の活動内容	地域の環境美化活動（公衆トイレなどの清掃活動）			
展開	日時	10月10日（5～6校時）	内容	地域の環境美化活動
	場所	町内（公共施設等）	対象生徒	全校生徒
展開	1 事前の指導・準備（各教室） (1) 美化活動を行う意義を確認する。 (2) 活動の目的や担当区域、注意事項を確認し、清掃用具、ゴミ袋などを配分する。			
	2 地域の環境美化活動 (1) 出発式（グラウンド）及び移動 ・生徒会長及び町内会長（地域の代表者）による「清掃宣言」 ・公園や駅、町内のゴミステーション等の担当区域へグループごとに移動する。 (2) 清掃活動 ・公園のゴミ拾い、公衆トイレの清掃 ・駅、バス停の清掃 ・町内の花壇整備やゴミステーション周辺の清掃（町内会の参加者と協働して実施） ・校舎周辺の道路沿いのゴミ拾い（町内会の参加者と協働して実施） (3) 活動の反省 清掃活動終了後に、町内会や施設等の代表者から講評をいただく（いない場合は、区域担当の教員が行う）。			
指導上の留意点	1 活動の目的についての理解が十分になされるよう配慮する。			
	2 活動計画の立案に当たっては、生徒の発想や考えを生かせるよう配慮する。 3 活動が円滑に実施できるよう、町内会や施設・関係機関等と事前に十分な連携を図る。 4 活動中の安全確保や施設設備の保全について、十分に注意を払うよう配慮する。			
評価の観点	関心・意欲・態度	他の生徒等と相互に協力するとともに、自分の役割を自覚し、積極的に活動に取り組んでいる。		
	思考・判断	ボランティア活動を通して、社会についての理解を深め、社会貢献や社会参加について考え、判断することができる。		
	技能・表現	相互の協力や助け合いながら、円滑に活動を進めることのできる技能を身に付けている。		
	知識・理解	勤労や社会奉仕の尊さや意義、社会の一員としての在り方を理解している。		
道徳教育との関連	1 奉仕にかかわる体験的な活動を通して、ボランティア活動の意義の理解や、他人を思いやる心や社会貢献の精神など豊かな心の育成 2 勤労生産の体験や就業体験等を通して、自己の特性、進路等についての理解や、人間としての在り方生き方の自覚の促進			
奉仕の精神や勤労観の育成等に関連した年間計画での活動	5月	校内美化活動（清掃、花壇整備）	11月	保育体験（保育園・幼稚園）、 介護体験（施設、老人ホーム）
	7月	地域行事への参加（フェスティバルの運営補助役員）	1月	独居老人宅等の雪かき作業（雪かき応援隊）
	9月	インターンシップ（地域の事業所、企業等）	3月	年間のボランティア活動の反省（LHR）
	10月	【展開例】 地域の環境美化活動（公衆トイレなどの清掃活動）		